

いつも神様は、恵みによって私たちの罪を取り除いて神の子としてくださいました。しかし、クリスチャンは神の子となったら突然奉仕が増えたりと思うことがありませんか。最初は喜んで奉仕していたのに段々だんだん疲れてくるという体験はありませんか。

■ ① 神様の祝福は神様の御言葉によって語られる

ヤコブは 31 章で「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物でこのすべての富を物にしたのだ」と、叔父のラバンの息子たちが言っているのを聞き、また、自分に対するラバンの態度が、以前のようにではないのに気づいていたが、31 : 3「あなたが生まれた、あなたの先祖の国に帰りなさい」と主が語られるまでそこにとどまっていました。私たちクリスチャン、神の子どもは、神様の御言葉に従わなくてはなりません。私たちは目で見えることや、自分で感じることや、人が言うことではなく、主が語ることにいつも耳を傾けなければなりません。主から御言葉を聞いていればぶれることはないのです。だからこそ、私たちは主の前に御言葉を聞く、主の御言葉は生きていて力があるということ、そして、御言葉は人の心に突き刺さります。だからこそ、クリスチャン自身が御言葉の素晴らしさを体験しなければなりません。私たちが弱い時に助けを求め、そういう時もそうですが、日々の歩みの中でも、人生の目標を神様の前に御言葉を持って確かなものにする必要があるのです。

■ ② 私たちは一人で神と向き合う必要がある

私たちには神様が与えてくださった人間関係の中で日々生活していますが、「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。(ヨブ 1 : 21)」をいれる。この御言葉にあるように、何かを決断していくときなど、神様と 1 対 1 の関係が築かれているからこそ、与えられる人間関係においても祝福されるのです。私たちは教会に来るときには人を介して教会につながっていきますが牧師の神でもなく牧師先生が言うからではなく、一人で神様の前に立ち、向き合い、つながらなければならないのです。神様は「私にとってあなたは愛する娘だよ、息子だよ」と単数で言ってくれるのです。

■ ③ 神様の祝福

祝福という言葉は、あまりにも一般的な言葉です。実際にヤコブは祝福されていたのです。イサクから、そして、ベテルで神の御使いから御言葉を与えられていたのです。私たちクリスチャンは救われた時に、実は、神様からの子どもとしての祝福を受けているのです。しかし、私たちは祝福を感じなくなったり、与えてくださいと願うところがあります。しかし、私たちはこの中で、祝福と言うのは一度、神様が祝福すると言ってくれたなら、必ず祝福され続けるということなのです。アブラハム、イサク、ヤコブも神様から選ばれ義とされてからも罪を犯しているのです。しかし、神様は一度祝福したら祝福し続けてくれるのです。今日のポイントはここなのです。私たちの神様は私たちを愛し選んで、祝福し続けてくれるのです。私たちがイエス様を救い主とし受け入れた時に、過去の罪も、現在

の罪も、将来の罪も全部背負ってイエス様は十字架に架かってくださったのです。

神様が私たちを愛し、憐れみ、恵みによって罪びとであった私たちを愛して救ってくださったのです。私たち一人ひとりには選ばれているのです。私たちはそのような恵みの中で、必ず祝福を受けているという確信を持って、クリスチャン生活を歩むと、クリスチャン生活が変わってくるのです。神様は選んだらいつも「愛する娘よ、息子よ」といつてくれるのです。私たちが迷っていたとしても、失敗したとしても、たとえ罪を犯したとしても、神様は「愛する娘よ、息子よ」と言って下さるのです。この恵みの中に私たちが土台を置かない限り、クリスチャン生活で何をやっても行き詰まりが来るのです。私たちが今日ここで、神様の祝福というのは「選びの祝福」だということを、是非、受け取ってもらいたいです。私たちは選ばれ永遠の命が与えられています。永遠の命が与えられていて罪を犯したら明日から永遠の命はこれでおしまい。とは言われません。しかし私たちがそこで悔い改めて、また、神様の方向へ向きを変えて行くならば、神様は赦して下さるのです。そして、神様はこの恵みを、あなたは受け取りなさい。私の愛はあなたが考えているより小さいものではない。私の恵みはあなたが考えているような人間的な恵みではない。私の恵みはあなたに十分である。聖書の中にある弱さの中に働かれるということを言われています。私たちはこのことを主の前に感謝して行くのではないのでしょうか。神様と向き合って神様が恵みを与え祝福を与えていることが分かった時、ヤコブは「だますもの」という意味でしたが、イスラエル「神と格闘するもの」と名前が変えられ 33 : 3 を見ると、この神様と向き合った後、彼はこの一団の先頭に行っているのです。神様が私たちクリスチャンに求めておられるのは、罪赦され神の子になったのにもかかわらず、怖がりながら後ろにて欲しくないのです。

神様のご計画は、クリスチャンがどんなときにでも喜び、感謝し主を賛美することができる。このことができるのは、神様の恵みによるものなのです。本当の聖書が言うクリスチャンだった必ず地域に影響を与えるのは当たり前なのです。私たちは「恵み」が土台なのです。そして、自分の方向ややり方、力、思い、能力ではなく、神様の助けや、導きや、祝福によって、また、主の霊によって満たされていきましょう。

■ お前の名前は何か

ヤコブと格闘した人が、「お前の名前は何か。」と質問しています。彼は「ヤコブです」と答えています。彼はもう 20 年以上前のことが傷になっていたのです。父親の前で「お前は誰だ」と聞かれて「エサウです」と答えています。「お前は本当にエサウか」と再度問われ「はい」と答えています。神様はそういうヤコブの傷を見逃さなかったのです。だから、「お前の名前は何か」と聞いたのです。そこで「ヤコブです」と答えたので、そこで新しいステップに行くように「名前をこれからイスラエルと名乗りなさい。」と言われました。ひょっとしたら、みなさんの中にもこれまでの傷があるかもしれませんが。罪は赦された。でも、心の中で引っかかっているものがあるのかもしれませんが。しかし、この朝、聖霊様がさぐってください、もう一度チャンスを与えてくださっています。そして、そのチャンスに私たちが答えたときに、主はその傷を癒して下さい。そして、私たちが新しいステップへと引き上げて下さるのです。それは、私たちが主の恵みを、恵みとして受け止め、そして、クリスチャンの喜びに満ち溢れて歩む為ではないのでしょうか。

(要約者: 澤口 建樹)

(2018年6月10日)